

ちばじゅん子

盛岡市
市議会議員

市政レポート
vol.1

2024 Feb



新年あけまして、おめでとうございます。

いつも、皆さまから、あたたかいご声援をいただきありがとうございます。

昨年8月に、盛岡市議会議員選挙において、初当選させていただき、5カ月が経ちました。

盛岡市が住み続けたいと思える街にしていけるよう、地域の皆様、そして盛岡市民の皆様から、課題等を教えていただき、また、私自身が議員になったら実現したいと掲げてきた公約などを中心に、これから取り組んで参りますので、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞ、よろしくお願いいたします。

これからの議員活動は、このような形で報告して参ります。

初回の今回は、初めて12月定例会で一般質問を行いましたのでその内容を中心に掲載させていただきます。

住みたい・住み続けたい「もりおか」をつくりたい

5つの公約

1 盛岡市民に寄り添った人口減少問題への取り組み

2 一年通して、誰でも住みやすい道路環境が整った街づくり

3 若者の地元定着の促進

4 地域コミュニティの維持・活性化

5 議会改革
市民のみなさんの声を行政にしっかり伝える

プロフィール

昭和 43 年 12 月 山田町生まれ
昭和 62 年 3 月 宮古高等学校卒業
昭和 63 年 3 月 東北電子計算機専門学校卒業
平成 4 年 3 月 法政大学文学部教育学科卒業
平成 4 年 4 月 東京にて航空機製造関連の東証 2 部上場企業に就職 社長秘書
平成 7 年 1 月 上記企業退職
平成 7 年 4 月 岩手県庁入庁
令和 5 年 4 月 岩手県庁退職 (在籍期間：28 年)

県庁在籍期間担当
保健福祉部 (自殺予防対策等)
県議会事務局
教育委員会 (学校教育) 等
家族構成
夫 長男 (県外で社会人)
趣味
神社仏閣の御朱印集め
料理

A1 現状と課題として、農業、工業、商業などの業種や、成長分野などを対象とした分野別の産業の振興を図ってきたが、それぞれの特徴に応じたきめ細かな施策が展開できる一方で、計画や戦略に含まれない業務や分野に支援が行き届きづらいことや産業全体を見据えた施策を展開しにくい課題があると認識している。
製造業や情報サービス・医療福祉機器分野の企業誘致、企業・創業による集積促進や、物流拠点の整備などに加え、デジタルの活用や販路の拡大、市内事業者が連携した新商品の開発など、地元企業の経営力強化や地域内経済の好循環に向けた産業・分野横断的な中小企業振興策を地元企業等とともに展開することで、強い地元経済を創っていく必要があり、条例策定にも、前向きに検討していく。

盛岡市の産業施策の現状と課題をどのように捉え、今後、どのように強化すべきと考えているのか伺う。

〈参考データ〉

条例の策定状況は、東北の県庁所在地では、盛岡市以外は策定済。県内33市町村のうち、17市町村で策定済。

今後の盛岡市が住み続けたいと思える街にするためには、雇用と税収の確保が、最重要課題である。
自治体の主な財源である、市民税、固定資産税、法人税を確保するためには、高付加価値型の産業を進展させ、労働者が盛岡に定着する取り組みを今以上に強化する必要があるが、今後どのような産業振興を図っていくのか。市内の、およそ8500企業のうち9割以上を占める中小企業を産業別ではなく横断した振興策が必要だと思ふ。
盛岡市としては、しっかりしたビジョンを持つためにも、一次産業から三次産業までの産業全体を俯瞰した振興策として、条例の制定がまず必要ではないか。

Q1 産業振興を推進する盛岡市のビジョンについて

議員として初めての一般質問は、私が公約の一番に掲げる、「人口減少対策を具体的に進める取組」について、6項目質問しました。



令和5年12月定例会一般質問

質問、答弁内容について、抜粋して紹介します。

Q2 中小企業支援策として、国が実施する補助事業の活用について

国は、自治体の予算を経由せず、金融機関や商工会議所等の認定支援機関が申請窓口となる、国直轄の補助金を中小企業者に交付している。その一つに、「ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金」(いわゆる「ものづくり補助金」)がある。
本県の事業所の採択状況を見ると、全国でも下位から6番目である。このことから、国が支援策とする補助金をうまく活用できていないことが見て取れる。
補助金申請について、中小企業者からは、申請書類作成が困難である。利用できる補助金の情報を知らないなどの声を聞く。

この補助金のように、自治体が行う事業以外にも、地域の外から外貨を稼ぎ、地域の中に循環させることが必要だと思ふ。
盛岡市が、金融機関、商工会議所などの関係機関と、実効性のある連携をこれまで以上に構築し、盛岡市が旗振り役になることが必要ではないか。



〈参考データ〉

ものづくり補助金の本県事業所の採択状況は通常枠で226事業所(第15次まで)。東北の中では、山形、宮城県、福島県が、320〜360件程度採択されている。(市町村別データは公表されていない。)

〇中小企業支援策に具体的にどのように取り組んでいるのか。

〇国直轄の補助事業に、どのように関与しているのか。
〇今後、国の補助事業をさらに活用できるようにするため、盛岡市の役割はどうかあるべきと考えるか。

A2 中小企業支援策として企業サポート専門員2名を配置し、企業のニーズ把握や産業支援機関等の施策周知や、デジタル化の支援、国内外への販路開拓支援、人材確保支援などを行っている。また、市役所内に経営相談窓口を設け、県や金融機関等と連携しながら、県融資制度に係る既往債務の借換え制度などの支援策の周知等に取り組んでいる。

国の補助事業の更なる活用については、専門的な知見に基づく支援が必要となることが多いと考えられ、金融機関や商工団体などのほか、税理士やコンサルタントなどを含め、約80の認定経営革新等支援機関があり、事業者に最適な支援策につなげる仕組みづくりにおいて役割を果たしていく必要があると認識している。

Q3 市の財源確保策の一つである、ふるさと納税制度について

市の財源確保策の一つに考えられている、ふるさと納税であるが、現在の制度は、住んでいる自治体から他の自治体に住民税が移動する、事実上の租税競争を引き起こしているとの声もあるが、令和3年度決算において、自治体の歳入予算の約1割程度をふるさと納税の寄附で賄っている自治体は全国には88もある。県庁所在地のような都市部の自治体は経費を差し引くと赤字となる自治体も多く、盛岡市もその一つであるが、黒字化している山形市や福島市なども存在する。

黒字化している自治体は、魅力的な返礼品を生み出す食品加工等の会社の誘致、新規創業や商品開発するために自治体独自の奨励金制度を創設、ふるさと納税サイトの積極的な活用などの対策を講じている。

また、企業版ふるさと納税制度についても、寄附をいただくプロジェクトの内容に加え、自治体職員が何度も企業に足を運んだ。市長によるトップセールスを行った。金融機関や寄附企業と包括連携協定を結び継続的に寄附をしてもらえる仕組みを作るなど、自治体側の営業努力によるところが大きいことが確認できた。

今後、企業との関係構築や、魅力あるプロジェクトづくりが必要ではないか。

○市としてふるさと納税制度の赤字の原因をどのように分析しているのか。
 ○ふるさと納税で集めた寄付金はどのように使われ、また、今後どのように実施するつもりなのか。
 ○企業版ふるさと納税制度による寄附額を増加させるため、どのように取り組むつもりなのか。

A3 ふるさと納税制度の赤字の原因は、「冷麺」や「南部鉄器」などの人気の返礼品はいくつかあるものの、他自治体に比べ税控除額を上回るほどの寄附額受入につながる魅力的な返礼品を用意できていないことと認識している。

使途については、「盛岡の自然のめぐみ「食・農」を応援や、「未来を担うもりおかの子ども子育て」など、10項目の応援メニューに関連した事業の財源としている。

今後は、盛岡市の魅力を活かした寄附額を増やすため、ツアーの開発など体験型返礼品の拡充や、規格外の農産物を活用した新商品、歴史文化から着想を得たお菓子や工芸品の開発などの実現に向け、寄附額全体を押し上げるように努めて参る。

また、企業版ふるさと納税制度についても、「在京盛岡広域産業人会」においてトップセールスを行ったり、盛岡市と寄附企業とを結びつける業務委託を実施し、更なる寄附額増加に努めて参る。



Q4 在宅医療と介護の連携について

在宅医療のニーズの高まりを踏まえ、国において、在宅医療連携拠点事業のモデル事業を平成23年度に実施、当時採択された全国10か所の一つに盛岡の事業が選ばれた。

盛岡市は、そのモデル事業の実施もあり、全国に先駆けて取り組む、誇れる先進地であると認識している。事業所は、「チームもりおか」と連携し、約12年間にわたる在宅医療の拠点を担っており、多職種間で連携を強化するための研修会や人材養成研修などの在宅医療を今後発展させていくための基盤づくりを地道に行っており、この取組は、高く評価されるべきだと思う。



今般、国において、今後の在宅医療の体制整備を医療機関のみならず介護との連携をこれまで以上に密接なものとし、包括的なケアシステムを構築するため、医療機関とともに、「必要な連携を担う拠点」の役割をさらに明確にした第8次医療計画が策定した。

今年度から盛岡市では、これまでの委託事業を廃止し、市が直営で多職種間の連携を図っていくと認識している。しかし、在宅医療は対象が高齢者のみならず、障がいや難病のある方、医療的ケアが必要な児童など幅広い対象者が想定されることから、今後の推進にあたり、庁内各課が取り組んでいる事業の内容や課題を共有し、在宅医療の提供体制について検討する部局横断的なプロジェクトチームを立ち上げる段階だと伺っている。

○これまで取り組んできた高齢者を対象とした事業の成果と課題をどのように認識しているのか。
 ○現在進めている、プロジェクトチームを今後どのように発展させていくつもりなのか。
 ○今後も先進的に取り組むべき対策だと思いが、県外の他自治体で取り組んでいるように、専任チームを配置するなど、現在の体制を拡充する必要があるのではないか。

A4 これまで、医療・介護職員等の資質向上を図るための研修会を開催し、双方の顔が見える関係の構築が進んだほか、医療と介護の情報伝達がスムーズに行われるようになったが、課題としては、お互いの役割の理解が十分でないなどの声が寄せられている。

今後のプロジェクトチームは、市役所内の各部局の取組状況、課題を分析し、市医師会や医療機関等とも協議を重ねながら、在宅医療関係機関の多職種協働による連携体制の構築や、地域住民への普及啓発など、地域に寄り添った在宅医療提供体制の実現に取り組んで参りたい。

今後の在宅医療と介護の連携は、退院支援から看取りまでケア

Report

令和5年盛岡市総合防災訓練に参加しました！

11月18日に、盛岡南公園(きたぎんボールパーク等)を会場に実施された総合防災訓練は、地震(土砂災害)を想定したもので、避難所の開設運営訓練、負傷者救出訓練、水道管応急復旧訓練、災害車両の運行訓練など、有事を想定した緊張感のある訓練でした。

元旦に発災した能登半島地震でも、すぐに必要とされている行動です。災害が起きたら、自分はどうな行動を取ったらよいか。日頃からの備えの重要性、地域コミュニティの大切さを、今一度考えてみる必要があるかと実感しました。



Report

「上厨川地区のまちづくりを考える会」の要望書を内閣盛岡市長に提出しました。

土淵地区に予定されている、新たな盛岡広域のごみ処理施設の隣接地域について、都市計画道路の整備や、上厨川土地区画整理組合跡地を利用したまちづくりを推進するため、12月26日に、盛岡市長に対して要望書を提出しました。

まちづくりを考える会では、「上厨川ふれあいパーク」まちづくり計画を策定しています。少年野球場を始めとしたスポーツ施設の整備など、盛岡の西側玄関口の広域交通網の要所である地域の優位性を活かし、盛岡広域の持続的な発展に寄与することを目的とした計画です。

今後、ふれあいパーク構想を実現させるために、活動をして参ります。



の全体像を共有しながら、役割を理解し担うことが必要で、そのために関係機関で調整し連携体制を組み立て、患者情報を共有する枠組みを検討することが求められる。

このことが国が示した指針であり、「必要な連携を担う拠点は、行政機関であるからこそ担えるものと認識しているが、これを実現していくためには、相当量かつ長期的なコミットメントを必要とし、市役所内の組織間も単なる協力体制ではなく、兼務などの責任の付与や、専門チームを編成するなど組織を拡充して推進することが望ましいと考える。

その他、次の質問をいたしました。

5 NPO法人等の公益法人の活用促進策として、その一つに、休眠預金活用事業が有効ではないか。

6 人口減少が今後進んでいくことが予想される中で、将来にわたって持続可能な除雪対策を今から先を見据えて構築していくことが必要ではないか。

3月定例会においても、一般質問を予定しています。質問日程は、3月定例会開会后、HPで確認できます。質問内容は、盛岡市議会HPでも視聴できますが、議場でも傍聴できますので、お時間都合つく方はぜひ、お越しください！

盛岡市中期財政見通し(令和6年度~10年度)

今後5年間の財政見通しを機械的に試算したものの、令和6年度以降は、収入と支出の差が約7億円から12億円の不足となる見込み。その差を財政調整基金の取崩しで対応した場合、同基金の残高は、令和10年度末に約47.7億円となり、財政調整基金の適正残高の目安としている60億円(標準財政規模の約1割)を下回る、厳しい状況が見込まれます！

区分	(単位:百万円)									
	R4 当初予算	R5 当初予算	R6	R7	R8	R9	R10	R6~10	傾向	
歳入 A	123,688	119,581	117,364	118,298	118,495	118,164	118,102	738	↓	
実質的(一般財源 (地方税+交付税+臨時財政対 照債+譲与税+交付金))	70,977	71,627	71,753	71,857	71,962	72,068	72,175	422	↑	
歳出 B	125,925	121,390	118,394	118,925	119,575	118,968	119,347	953	↓	
収支 A-B=C	△ 2,237	△ 1,809	△ 1,030	△ 689	△ 1,080	△ 704	△ 1,245	△ 215	↓	
財政調整基金年度末残高 D	6,823	6,344	5,951	5,898	5,445	5,378	4,770	△ 1,181	↓	

盛岡市ホームページから引用

ちばじゅん子事務所 《千葉 順子》

〒020-0041 岩手県盛岡市境田町6-17-202
 TEL 090-3823-3694 FAX 019-903-0335
 Mail chibajunmorioka@gmail.com
 H P https://chibajunmorioka.com/

盛岡市議会での所属党派等
 所属党派: 盛友会
 常任委員会: 総務常任委員会
 特別委員会: 公共交通対策特別委員会(副委員長)
 審議会委員: 盛岡市上下水道事業経営審議会、盛岡市都市計画審議会

皆様のご意見をお聞かせください！



ちばじゅん子
Facebook



ちばじゅん子
Instagram